

ひとりで覚えたものは一生わすれない

このように、ひとりで覚えた記憶というものは、一生わすれることがない、というのは、つい最近の心理学で明らかにされたことです。ですから、あせらず、ゆっくりと、長い時間をかけて、気の向くままに任せておくのが、けっきょくは早いことになります。

それに、子どもの小さいうちに早く漢字を覚えること、それ自身には、たいした価値も意味もありません。10 や 20(百でも同じことです)の漢字を覚えたからといって、なんの役にもたたないからです。

わたしが、「漢字を教えようと思ってはいけない」とご注意申しあげたのには、二つの意味があったのです。

前に、「漢字教育を始める時期は、三歳以後なら、早ければ早いほど」と申しあげたのは、このくらい早くから始めておけば、あわてることもなく、ゆっくりと、気ままに任せていられるからです。かりに、一か月に二、三字ぐらいの割合で覚えていったとしても、入学するまでには、百字ぐらいはらくに覚えられるからです。

くり返していますが、あせったり、教えようという気持ちをむき出しにしたりしてはいけません。まして詰めこみ教育など、もちろん禁物です。